

政治・経済定点観測レポート

ウズベキスタン NOW

【第 15 号:2011 年2月－3月期】

* 本レポートは ROTOBO の協力者である現地専門家の執筆によるものです。内容は執筆者の個人的見解であり、ROTOBO の組織的見解とはいかなる意味でも関係ありません。内容の無断転載、引用は堅くお断りします。

経済概況

2010 年のウズベキスタン共和国の貿易高が実績値で 218 億ドルとなり、そのうち輸出総額が 130 億ドル、輸入が 88 億ドルであった

2010 年の輸入総額に占める割合は、生産財が 83.7%を超え、金額で 70 億 1,620 万ドル、消費財が 11.6%、金額で 13 億 6,440 万ドルであった。

ウズベキスタンの最大の貿易相手国はロシアであり、ウズベキスタンの貿易高の 29.2%をロシアが占めた。2010 年のウズベキスタンとロシアの貿易高は前年比で 43.4%増加し、63 億 7,700 万ドルに達した。そのうちウズベキスタンからロシアへの輸出は 96.8%伸びて 44 億 4,100 万ドルに達し、ロシアからの輸入は 11.6%減少して 19 億 3,600 万ドルになった。

ウズベキスタンの貿易相手国上位 10 カ国にはロシアのほか中国、カザフスタン、韓国、トルコ、アフガニスタン、イラン、ウクライナ、ドイツ、英国が入った。

2010 年の固定資本投資は総額で 15 兆 4,090 億スム^{*1}となり、前年比 9.2%増加した

このうち、国家主導型投資^{*2}は 2 兆 8,550 億スムとなり、前年比 0.3%減少した。民間投資は 11.7%伸びて 12 兆 5,540 億スムに達した。

国家主導型投資のうち、国家予算が 1 兆 1,360 億スムで 3.6%の増加、灌漑地土地改良基金 (FRRU) の資金が 638 億スムで 2.8%の増加、ウズベキスタン復興開発基金の資金が 5,813 億スムで 41.8%の増加、各種の予算外基金の資金が 4,983 億スムで 28.8%の減少であった。

固定資本投資の約 72%が建設・生産財に向けられ、とりわけ約 38%が設備と先端技術の導入に向けられた。

^{*1} 1 USD = 1702 スム (2011 年 6 月 17 日現在)

^{*2} 国家の予算および予算外基金、政府保証を付けて導入する対内投資、国家機関が融資などを原資にして管理・実行する投資。

2010年、各種地域投資プログラムに7億1,010万ドルの資金が投資された

このうち対内直接投資が3億1,140万ドル（43.9%）、外国からの融資が3,910万ドル（5.5%）、投資プログラムの地元実施主体の自己資金が2億7,060万ドル（38.1%）、地元の市中銀行による融資が8,900万ドル（12.5%）であった。

主な投資分野は次の通り。軽工業 - 1億6,020万ドル（22.6%）サービス業 - 1億520万ドル（14.8%）、建設資材製造業 - 9,190万ドル（12.9%）、石油ガス産業 - 4,400万ドル（6.2%）、食品工業 - 3,880万ドル（5.5%）、化学工業・石油化学工業 - 3,740万ドル（5.3%）、通信業 - 2,620万ドル（3.7%）、電気工業 - 2,550万ドル（3.6%）、社会施設・生産施設建設業 - 2,350万ドル（3.3%）、製薬産業 - 1,970万ドル（2.8%）、青果物加工業 - 1,870万ドル（2.6%）、自動車製造業 - 1,710万ドル（2.4%）、金属製品製造業 - 1,550万ドル（2.2%）、養鶏業 - 1,380万ドル（1.9%）、製粉業・穀物由来製品（パン類、マカロニ製品および菓子類）製造業 - 1,220万ドル（1.7%）、食肉・乳製品加工業 - 1,140万ドル（1.6%）、皮革加工業および皮革製品・履物製造業 - 830万ドル（1.2%）ならびにそのほかの経済分野 - 4,070万ドル（5.7%）。

投資政策

ウズベキスタン国立銀行（NBU）と三井住友銀行（SMBC）が覚書を締結

この覚書は、両金融機関の互恵的な提携の強化を図ろうとするものであり、特にウズベキスタンと日本の企業間の取引を貿易金融の面から支援することを想定している。覚書のもう一つの狙いは、ナヴォイ自由産業経済特区での商機を逃さないようにウズベキスタンと日本の企業の投資を促すことである。この目的のために SMBC は最大1億ドルの融資枠を設ける意向である。NBU と SMBC は、このような協力の一環としてウズベキスタンの生態環境の改善、温室効果ガスの排出削減および安定成長にかかわる各種のプロジェクトに特別の関心を払っている。

エネルギー・セクター

ウズベキスタンの石油、ガス、ガスコンデンセートの産出量および燃料エネルギー・セクターの製品生産高が減少

ウズベキスタンのガソリン生産高が2009年同期比10.9%減少した。燃料エネルギー・セクターのほかの製品でも生産レベルの低下が認められた。とりわけ石油・ガスコンデンセートの産出量が370万トン（前年比-17.8%）、ディーゼル燃料の生産量が112万5,000トン（-13.6%）、灯油の生産量が37万2,800トン（-12.5%）にそれぞれとどまった。天然ガスの産出量は601億1,100万m³（前年比-2.1%）、液化ガスの生産

量は 24 万 5,700 万トン(-0.2%)、エンジンオイルの生産量は 6 万 1,900 万トン(-1.7%) にそれぞれ減少した。

国営持株会社ウズベクネフチェガスが 2012 年—2015 年に既存の各製油所の生産設備近代化 4 事業の実施を計画

これら 4 事業は、費用総額が見積もりで 3 億 500 万ドルとなり、「2011—2015 年ウズベキスタン共和国優先的産業発展プログラム」の一環として実施される。

ウズベキスタン政府が「トルクメニスタン—ウズベキスタン—カザフスタン—中国」ガスパイプラインのウズベキスタン区間の第 3 期建設事業を 2014 年までの完了の予定

費用総額が 22 億ドルとなるこの事業の実行には中国の国家開発銀行と中国石油天然気集団 (CNPC) が参加する予定である。工事が完成すればこの新設ガスパイプラインの輸送能力は 250 億 m³/年となる見込みである。このパイプラインの既存の第 1 期工事分と第 2 期工事分も考慮に入れると中国は、トルクメニスタン産ガスとウズベキスタン産ガスの輸入総量を 2014 年の年初から合わせて年間 550 億 m³に引き上げることができる。

ナヴォイ鉱山精錬コンビナート (NGMK) が NUKEM 社 (独) と共同でウラン生産量の安定化・引き上げならびに販路拡大を計画

2011 年 2 月中旬、NGMK と NUKEM の間で、ウズベキスタンでの米国社の活動の継続および現行の契約の変更を取り決めた協定書が調印された。現行契約の変更によってウズベキスタン側は、最終ユーザーへ直接販売できるウランの量を増やすことだけでなく、市場での販売量を引き上げることも可能となる。NUKEM と HGMR はまた、ナヴォイ自由産業経済特区で生産活動を展開することも計画している。NUKEM は、1992 年以來ウズベキスタンで事業を展開しており、HGMR との間でウラン買い付け長期契約を締結している。この間 NUKEM は 1 億ポンドを上回るウズベキスタン・ウランを販売している。ウズベキスタン産ウランは米国の最大の原子炉をはじめとして世界 12 カ国の原子炉向けに供給されている。

伊藤忠商事とナヴォイ鉱山精錬コンビナートが日本の電力産業向けウラン定期買い付け 10 カ年契約に調印

メディアの報道によれば、伊藤忠商事は 10 カ年に渡って毎年 500~1,000 トンのウランを調達することになる。ウズベキスタンは 2006 年 10 月、ウラン探鉱・開発合弁企業の設立の可能性を探ることを趣旨とする確認書を伊藤忠商事との間で取り交わしている。また、その一年後、ウズベキスタンと伊藤忠商事は 2009 年までにナヴォイ州ルドノエ鉱床でのウラン・バナジウム採掘技術を開発するという内容の契約を締結し

ている。

自動車・輸送セクター

合弁企業 GM Powertrain Uzbekistan がタシケント州ザンギアチンスキー地区で年内にエンジン製造工場の稼働へ

工場の設計能力はエンジン年産 22 万 5,000 基、総事業費は 5 億 2,200 万ドル。工場は今年 3 月にフル生産を開始するとみられている。

2011 年—2013 年に自動車産業の発展に向けて 8 億ドル超が投資される

このうち 5 億 3,800 万ドル超は新規施設の建設に向けられる。主な資金の担い手は、ウズアフトプロムが約 3 億 300 万ドル、灌漑地土地改良基金（FRRU）が 1,490 万ドル、各市中銀行が 1 億 7,310 万ドル、外国人投資家が合わせて 5,790 万ドルである。

この中では GM Powertrain Uzbekistan のエンジン生産工場の建設が最大の事業になる。同工場は、生産が軌道に乗ってフル操業に入ると年間 22 万 5,000 基—27 万基の自動車エンジンを生産することが可能となる。総工費は 5 億 2,100 万ドルを上回る。

約 2 億 6,120 万ドルは既存の各事業所の近代化・改修に向けられる。今年タシケントでメルセデスベンツの車台を使って大型バスの生産を開始することになっている。計画ではウズベキスタンで毎年 600 台のバスを生産することになっている。

来年は液化天然ガスを燃料とする自動車「ラセッチ」の製造技術開発作業が終了し、同モデルの年間 5,000 台の生産が射程に入る。2013 年にはネクシャ・シリーズの新モデルの乗用車の生産が始まる。GM Uzbekistan 工場では生産レベルを最大 10 万台／年に引き上げる計画である。これら 2 つの事業の総費用は 1 億 3,900 万ドルを上回る。

全体として、2015 年までに乗用車の生産台数を現在の 1.5 倍、年産 26 万台まで、バスとトラックの生産台数を 1.3 倍、年産 3,200 台まで引き上げる計画である。

その他のセクター

ウズベキスタンでは 2011 年にナヴォイ自由産業経済特区で光ファイバー製造工場の建設が開始される予定

この事業に参加するのはオマーンの Oman fiber optics 社であり、同社は合弁企業に約 250 万ドルを投資する。ウズベキスタン側からは国営持株会社ウズベクネフチェガスが Oman fiber optics のパートナーになる。2011 年のウズベキスタン発展のための優先項目の一つとして、最新のブロードバンド技術、光通信技術を導入すること、これを土台にして通信網を近代化し、各州都でのデータ通信網を拡充することが掲げられている。全体として、国際インターネットに接続できる回線の容量を現在の 4 倍に増強し、ダイヤルアップ回線によるインターネット利用者を 300 万人 から 350 万人に増やし、ブロードバンド通信網の利用者を現在の 2 倍の 10 万人に増やす計画である。